

万亭應賀作

新編萬葉集

〜 13
3785
65

上



門 へ 13
號 3785
卷 65

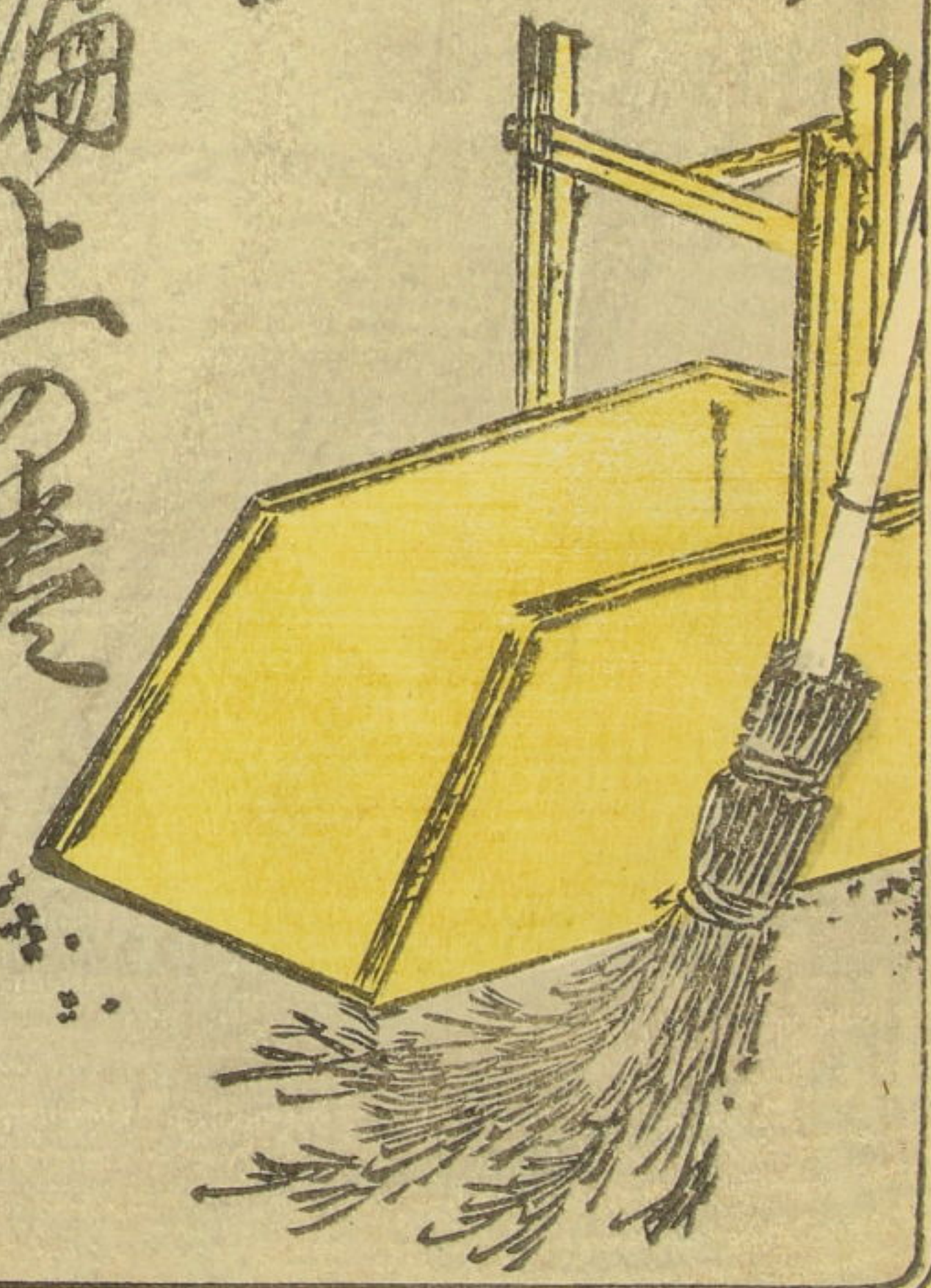
塵の登

府無古

一平三編上の巻

一壽齋五

上及底書を板



乙卯春

九 一 九

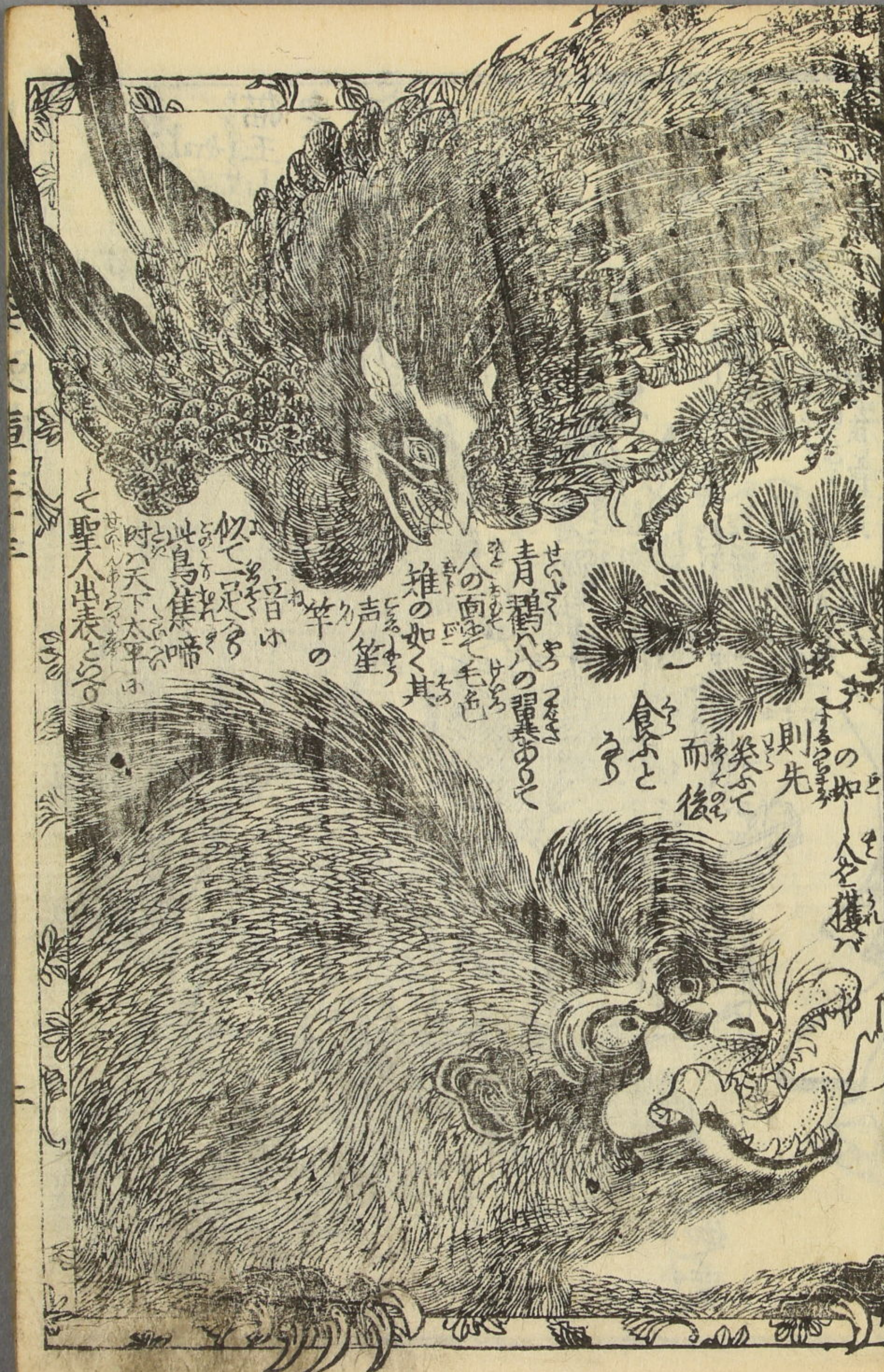
釋迦八相倭文庫三拾三編

夫女の三十三歳の二三と云語因とて大厄年と俗に稱は外に據
と曾不知る三拾三編の鬼子母の大厄穢清めて孩子と護る發
起と誌せと鬼子母の説の頭正論又鬼子母経及び寄歸傳並
小陀羅尼集等皆異説多故其撮要と再戲して吉祥果と
不榴木比し九色の鹿を青鶴との贅説過る識好ぶる味ひ知奴
がム夜目良滅の八百著漸出さるの贅でる唯笑談の序めを
飽て懐箇吞て煙草より咽小支る次編の永さ未尋く是ら
感尺要天竺までも行程の道州双紙の拙きとあらで三十三
編廻りて伏佗と云のりす

嘉永八年
乙卯新春

万亭應賀誌





青鶴の翼の如く
 人の面毛色
 推の如く其
 声笙
 竿の
 立日
 似て一足
 此鳥焦啼
 天下太平
 聖人出表

則先
 而後
 食と
 者へ二丈余あり
 て千鈞
 を負人の
 面は獼猴



妙頭の長男
 圓満具足葉又
 是鬼子母の夫
 法性
 邪司
 佛々の大者
 者へ二丈余あり
 て千鈞
 を負人の
 面は獼猴

釈迦如來

釈迦如來
猫王山



帝母の生子

千人の末子
嬪伽羅と藏

妹の摩尼
鈴女と度

一梨

嬪伽羅童子

鬼子母の

末子

嬪伽羅童子



大迦葉

圓満具足夜叉の妻

鬼子母
一名 訶利帝母

鬼子母の姉

灸匿
上臈



鬼子母の妹
六尼鉢

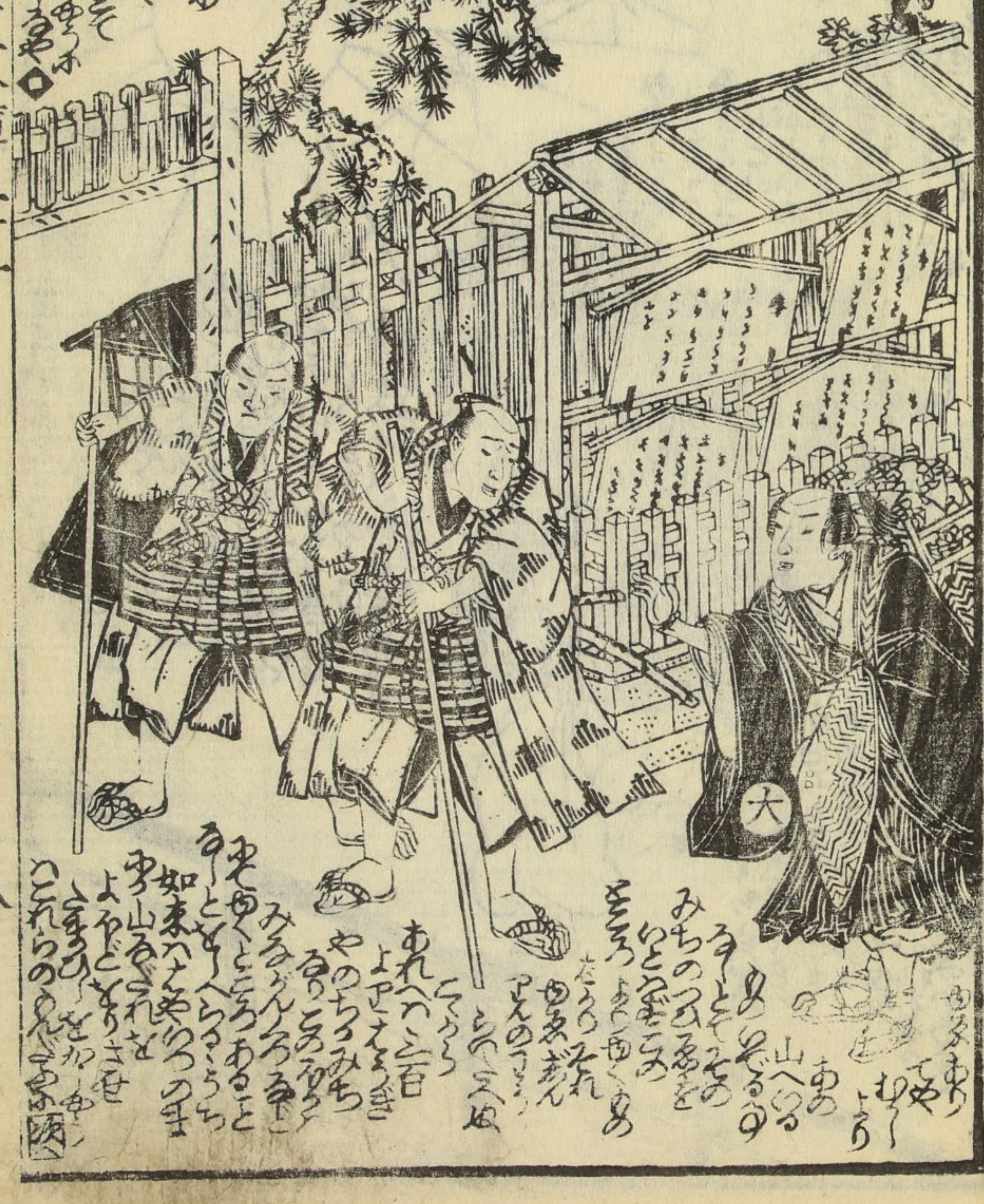


鳥の鳴き声は
 さあ、さあ、と
 鳴き出す。その
 音は、遠くまで
 響き渡る。鳥は
 静かに佇んで、
 周囲を眺める。

比羅衛國領

○この鳥は、昔から
 比羅衛國の守護
 神とされている。
 その姿は、雄偉
 であり、その鳴
 き声は、人々を
 勇気づける。今
 日も、この鳥は
 静かに佇んで、
 周囲を眺める。

鳥の鳴き声は
 さあ、さあ、と
 鳴き出す。その
 音は、遠くまで
 響き渡る。鳥は
 静かに佇んで、
 周囲を眺める。



鳥の鳴き声は
 さあ、さあ、と
 鳴き出す。その
 音は、遠くまで
 響き渡る。鳥は
 静かに佇んで、
 周囲を眺める。

鳥の鳴き声は
 さあ、さあ、と
 鳴き出す。その
 音は、遠くまで
 響き渡る。鳥は
 静かに佇んで、
 周囲を眺める。

